

■宇井純 環境学者。大学院時、水俣病に出会い、自主講座を始め、万年助手のまま、公害問題の先頭に立って啓発し続けた。

ういじゅん

五一五事件・1932＝ 東京都新宿区で、6月(June)に生まれ、"純"と名づけられる。

帝人疑獄事件1934＝ 2歳：父が茨城県の女学校に就職したため東京を離れ、_早くも、新聞を読んで、神童といわれ、

田中戦争始・1937＝ 5歳：

第二次大戦始1939＝ 7歳：茨城県立女子師範学校付属小学校に入学。_いじめられっ子ながら、正義感は強く、

大政翼賛会・1940＝ 8歳：_学校の授業で、化学実験に目覚め、

日米開戦・・1941＝ 9歳：

両親の郷里である栃木県壬生町へ疎開し、

敗戦・・・1945＝13歳：栃木県栃木中学校に入学。この頃には、_宇宙人のような異端児とみられていたらしい。

新憲法公布・1946＝14歳：_一家で栃木県壬生町の開拓団に参加。た祖父から、実際に役に立つ科学技術を学んで、大きな体験になり、ドイツの化学工業史を小説にしたシェンチンガーの「アニリン」を読んで、応用化学を志すようになる。

極東裁判判決・1948＝16歳：新制栃木高等学校に、第1期生として入学。

朝鮮戦争始・1950＝18歳：

独立回復・・1951＝19歳：東京大学(理科一類)入学、

TV放送始・・1953＝21歳：工学部応用化学科に進み、現代科学史研究会の前身{民科T班}に属す。家庭の事情で、大学院を諦め、

国連加盟・・1956＝24歳：卒業すると、勉強のつもりで、日本ゼオンに入社、富山県高岡工場へ配属されるが、組合活動が原因で、東京の営業部に出され、プロの技術者課長の薫陶を受け、大阪で、零細企業の職能ネットワークを学び、

美智子妃・・1959＝27歳：予定通り*退社して、東京大学の工学系大学院応用化学研究生になるが、収入が無くなった以上に、研究テーマが見つからず、精神的にも打撃を受けていたところ、新聞記事で熊本県水俣市の"奇病"事件を知ると、早速、応用化学の学生の工場見学に紛れ込み、初めて水俣を訪れる。日本ゼオン高岡工場時代、製造工程で水銀の廃棄に関わっていたことから、水俣病の有機水銀説に衝撃を受け、

安保闘争・・1960＝28歳：_修士課程入学、プラスチック加工の研究開始。安保闘争のデモに参加、安保条約成立後、排水処理への関心から、土木工学科を訪ね、工場排水調査に同行(北海道旭川国策バルブ工場)。

全国総合計画1962＝30歳：_修了すると、土木工学の博士課程に転科し、下水処理の研究開始。この年、写真家桑原史成とともに水俣病の原因がチッソ(株)からの排水との証拠をつかむが、公表できず悩み、

TV宇宙中継始1963＝31歳：_現代技術史研究会のメンバーと公害研究グループをつくって、会誌{技術史研究}に、富田八郎(とんだやろ)の筆名で、水俣病事件に関する連載を始める。

東京リベリッ 1964＝32歳：_合化労連機関紙{月刊合化}がそのまま掲載してくれ、水俣病問題が知られ始める。大学院生として、東京で開かれた第2回国際水質汚濁防止会議の事務局を手伝って、海外への目も開き、

大学紛争始・1965＝33歳：_同課程を満期退学。下水道の専門家として、新設の工学部都市工学科助手(衛生工学コースの実験担当)になる。新潟で第二の水俣病事件発生を新聞記事で知り、{朝日ジャーナル}の取材に細川一医師らと同行。

いざなぎ景気1966＝34歳：_ドイツ・ミュンヘン水質汚濁国際会議で、新潟水俣病事件に関する英文報告。実名での水俣病告発を開始したため、東大での出世の道は閉ざされ、以後21年、"万年助手"に据え置かれることになるも、

美濃部都知事1967＝35歳：_新潟水俣病事件の被害者家族が起こした訴訟の補佐人として弁護団に参加、公害被害者の立場に立った活動を開始。この年、応用化学の大学院から都市工学科の助手になった中西準子に、強い影響を及ぼし、以後、両者は"東大の良心"と呼ばれる存在になって行く。

震ヶ 1968＝36歳：_*「公害の政治学～水俣病を追って」出版。海外のことを知りたいと、申し込んだ世界保健機関(WHO)の奨学金が得られることになり、留学を兼ねて、ヨーロッパ諸国を調査、

全共闘 1969＝37歳：富田八郎君で「水俣病 水俣病研究資料」。ハンガリーで東大安田講堂攻防戦ニュースを知る。_オランダ国立衛生工学研究所のパスフィアに認められ、酸化溝による排水処理技術を学び、のちスイスでの学会で知りあった研究者らとイタリアの水銀調査を行なって、帰国。不在中に、自らの活動が、大学で色々と問題になっていたことを知る一方、「苦海浄土 わが水俣病」を出版した石牟礼道子を熊本に訪ね、以後、親交。

大阪万博・・1970＝38歳：東京で、国際社会科学評議会主催{公害についての国際シンポジウム}出席、部会司会等をつとめる。厚生省補償処理委員会による熊本水俣病事件被害者に対する補償あっせん案に抗議し、十数人で省内に座り込む(逮捕ののち不起訴)。*東京大学工学部82番教室で、工学部助手会のメンバーとともに、誰でも参加できる夜間講座として、非公認の自主講座{公害原論}を開講。月刊誌{自主講座}も発刊され、公害現場の住民運動などに強い影響を与えて行く。(水銀汚染の危険性を警告して)フィンランド自然保護協会特別大賞。

ト 1971＝39歳：国連海洋汚染研究専門家会議(GESAMP)出席。安和・勝山琉球セメント煤塵被害反対運動ほかで、沖縄を初訪問。自主講座の一環として、高知バルブ生コン事件特別弁護人となる。_『公害原論講義録』を出版し、

日中国交回復1972＝40歳：_毎日出版文化賞。ストックホルムでの{人間環境会議}開催にあわせて、水俣病の患者らとアピール。

石油ショック1973＝41歳：_自主講座実行委員会が、英文ニュースレター「KOGAI」創刊、「KOGAI」は世界誌になった。

角栄金脈辞任1974＝42歳：生越忠氏とともに自主講座(大学論)開講。参議院議員通常選挙に三里塚闘争の指導者戸村一作が出馬すると、小田実らとともに、{三里塚闘争と戸村一作氏に連帯する会}を発足させる。

グアテマラ事件1975＝43歳：第一次・第二次{世界環境調査団}団員として、カナダ・インディアン集落等を訪れ水銀汚染問題を調査。

田中角栄逮捕1976＝44歳：カナダで行なわれた国連人間居住(ハビタット)会議を皮切りに、南北アメリカを3ヵ月かけて歩く。

JALハッキング・1977＝45歳：革新系無所属で、参議院選挙全国区への出馬を要請され、迷った末、固辞。東大駒場(駒場講座)開講。

革新大敗北・1979＝47歳：若者むけの自伝「キミよ歩いて考えろ」出版。アジア環境協会(AES)再建のためのセミナー開催し、会長。

貿易摩擦問題1980＝48歳：国連大学プロジェクトの公害部担当。イヴァン・イリイチの来日にあわせ、沖繩・水俣を案内。

中曽根内閣・1982＝50歳：翌年につけ、フルブライト基金上級研究員として、ミンガン・ステート大学に留学。

ジャボ 機墜落1985＝53歳：_沖縄国際大学教授になっていた玉野井芳郎に呼ばれ、15年続けてきた自主講座{公害原論}開講をし、

バブル始・・1986＝54歳：*東京大学を退職して、沖縄大学法経学部教養科教授になる。沖縄到着後すぐに新石垣空港建設反対運動に参加。以降、県内の乱開発、土地改良事業等による赤土流出問題、畜産排水等による河川の水質汚濁問題などに取組む。大学では、教養ゼミ{沖縄の水}を主催。廃油石けんや、教材(ミニ本)をゼミ生らと作成。

竹下登内閣・1987＝55歳：沖縄県を対象に、諸分野の専門家が調査し講義する{沖縄の環境科学}を隔年開講。沖縄大学図書館長。

リクルート事件・1988＝56歳：プロイラー農場の依頼で、効率的な排水処理施設を設計、実現。沖縄大学地域研究所初代所長(4年間)。

ドイツ統一・・1990＝58歳：{沖縄大学地域研究所報・年報}創刊。沖縄大学のゼミ生らと台湾公害調査。_スモン基金奨励賞。

ソ連崩壊・・1991＝59歳：_大学で溜めた雨水・下水を再利用した中水システムの試みとして、自ら設計した浄化槽が沖縄大学内に完成。まさに技術者の本領を発揮した。日本におけるエコロジー思想の源流をアンソロジーで探った「谷中村から水俣・三里塚へ～エコロジーの源流」出版。国連環境計画(UNEP)グローバル500賞。

バブル崩壊・1992＝60歳：1年ほどの海外研修でカナダ、ブラジル、・オーストラリアほかヨーロッパ・アジアの各国を歩く。

55年体制終・1993＝61歳：沖縄大学のゼミ生らとベトナム産業公害調査。

自社さ連立・1994＝62歳：行政に対する具体的政策提案を意図した{環境フォーラム}第1回目を沖縄大学内で開催。JICAの要請を受けてニカラグア・レオン市を訪れ、下水処理場改善に専門家として協力(2年間)。

オムサリ 事件・1995＝63歳：沖縄県赤土防止条例施行で、排出基準検討委員会に参加。

・・・・・1996＝64歳：NHKライブライ「日本の水はよみがえるか～水と生命の危機 市民のための"環境原論"」、

金融破綻・・1997＝65歳：「キミよ歩いて考えろ～ばく」の学問ができるまで」。法経学部法経学科開設し、教授。{沖縄環境ネットワーク}発足し、世話人。また、{水俣病に関する社会科学的研究会}(座長・橋本道夫)に委員として参加。

・・・・・1998＝66歳：沖縄大学定年になり、以後、特任教授。豚舎排水処理の共同研究を沖縄県農林水産部長に持ちかけ、畜産試験場との協力で、回分式酸化溝の普及をめざす。

・・・・・2000＝68歳：名護市で開かれたG8沖縄サミットにあわせて直前に開催の{国際環境NGOフォーラム}にも尽力。

小泉9.11テロ2001＝69歳：

小泉北朝鮮・2002＝70歳：会の方向性を批判し、排出基準検討委員会の委員を辞任。第1回アジア太平洋環境賞受賞

イラク戦争・2003＝71歳：_沖縄大学退職。同大学名誉教授。16年ぶりに、東京に戻り、その間の変化に愕然とする。蒐集してきた公害問題資料全てを、埼玉大学共生社会研究センターに寄贈。

・・・・・2004＝72歳：_一定の成果を収めた「沖縄型・回分式酸化溝」普及するためのブックレットを出版。

小泉郵政選挙2005＝73歳：{九条の会}傘下に設置される(九条科学者の会)呼びかけ人にも名を連ねたが、

・・・・・2006＝74歳：胸部大動脈瘤破裂のため、東京港区の病院で、没した。

宇井紀子(編)「ある公害・環境学者の足取り 追悼 宇井純に学ぶ」, Wikipedia,